

ふれあい

さいせい



発行
済生会西条病院
 2012年春号 第55号
 西条市朔日市269-1
 TEL(0897)55-5100



新年度を迎えて

センター長 植田 規史

病気のお話…糖尿病

内科 金子 由梨

災害対策訓練を
実施しました

4病棟 看護師 越智 尚美

ニューフェイス

部署紹介・社会福祉課

医療・福祉支援係チーフ
大田 啓介

新人歓迎会

医局秘書 神原 勝己

新年度を迎えて

センター長 植田 規史



センター長
植田 規史

今年の冬は異常な寒さで、四国地方はそれほどではありませんでしたが、東北や北陸では大雪にみまわれました。今年の3月11日には東日本大震災から丸1年となり、東北地方にとっては、2年続いたの災害になりかねない事熊でしたが、ようやく春になり暖かい日が続くようになってほっとしています。東日本大震災一周年の追悼行事では、東京で開催された追悼式に天皇陛下がご臨席になり、厳かに犠牲者を弔う式が行なわれました。済生会の一員として、改めて東日本大震災で亡くなられた方々に、心から哀悼の意を捧げたいと思います。また、福島第一原発での事故のため、いまなお苦しんでおられる方々におかれても、一日も早い不安の解消を願っています。

済生会西条病院では、4月から新入職員を迎え、新年度がスタートしました。これからも、西条市の急性期医療を担うため、質の高い医療を効率的に行う病院として、益々努力してゆきたいと思っています。また、当病院では禁煙外来を開設して、日頃から禁煙活動に努めているところですが、厚生労働省は『成人の喫煙率の数値目標設定』に再挑戦するとの報道がなされています。これまでも、国全体として、喫煙率に対する取り組みが試みられてきましたが、他省庁やタバコ業界の反対などから撤回されています。

タバコが発がんのリスクを高めることは周知の事実であり、医学会も応援の後押しをしています。数値目標設定への今後の努力が期待されることです。

日本人の平均寿命は世界のトップクラスにありますが、50年後には平均寿命は男子が84歳、女子が91歳に達すると推定され、一方で人口ピラミッドの変化は激しく、高齢化率は約39%と欧米に比べ国際的に突出しており、加えて出生率の低下によって、人口は現在の3分の2まで減少すると考えられています。これからの医療現場においても、ますます高齢者対策などが急がれます。

病気のお話…糖尿病

4月から糖尿病の検査値<HbA1c>が変わります！

みなさんHbA1c(ヘモグロビン・エイワンシー)をご存知でしょうか？HbA1cは過去1～2ヶ月の血糖値の平均を反映する指標で、糖尿病の診断や治療中の血糖コントロールを評価するために使用されています。

どう変わるの？

日本で使用されてきた値と世界で広く使用されている値には測定方法の違いにより、0.4%近い差がありました。日本のHbA1cも国際標準に合わせることとなり、2012年4月からの変更が決まりました。

(*これまでの基準値=JDS、国際標準値=2012年4月以降の基準値=NGSPと呼びます)



内科
金子 由梨

新しいHbA1c(NGSP) = これまでのHbA1c(JDS) + 0.4%

つまり5.6%の人は6.0%、8.2%の人は8.6%になります。4月以降、急にHbA1cが高くなっても驚かないください。治療中の患者さんには、しばらくの間は新しい値(NGSP値)に加え、これまでの値(JDS)を併記する対応となっていますが、数年後にはNGSP値のみになると予定されています。

HbA1cが0.4%高くなることに伴って、血糖値の目標も以下のように変わります。(太字が新基準、()がこれまでの基準です)

指 標	コントロールの評価とその範囲				
	優	良	可		不可
			不十分	不良	
HbA1c(NGSP) (%) (これまでの値:JDS)	6.2未満 (5.8~6.5未満)	6.2~6.9未満 (5.8~6.5未満)	6.9~7.4未満 (6.5~7.0未満)	7.4~8.4未満 (7.0~8.0未満)	8.4以上 (8.0以上)

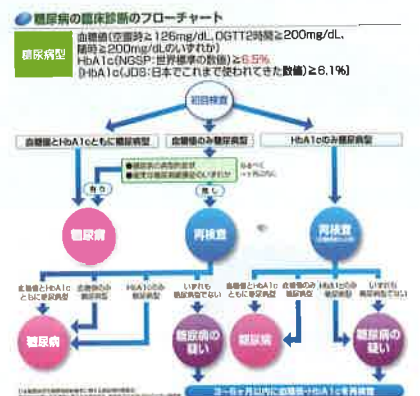
一方で健康診断は2013年度から新しい基準値への移行が決まりましたが、2012年度はこれまでの値(JDS)が使用されることとなっています。足並みが揃わないため、患者さんに混乱を生じてしまうことが予想されますが、今年の健診結果には0.4%足して考えるようにして下さい。

HbA1c(NGSP) 6.5% (JDS値では6.1%) 以上では糖尿病が強く疑われます。自覚症状がないまま動脈硬化、腎障害、網膜症などの合併症が進行するのが糖尿病の特徴です。検査を受けたことのない方はこの機会に一度HbA1cをチェックされることをおすすめします。

西条地区初！血糖測定の新兵器、持続血糖モニター登場！

糖尿病治療の目的は合併症の発症および進展を抑えることで、そのためにはできる限り血糖変化を健常者と同等なものに近づける必要があると考えられています。必要に応じて血糖自己測定を行い、血糖値の評価をしますが、1日数回の血糖測定では実際には十分に24時間の血糖変化を把握しているとは言えません。そこで血糖値を連続的に測定する機器、持続血糖モニター(Continuous Glucose Monitoring; CGM)が開発され、臨床に応用されるようになりました。当院でも2011年11月からCGMを使った検査を開始しました。前勤務機関の朝日生命成人病研究所附属丸の内病院では、臨床研究段階であった2009年よりCGMを患者さんの治療に活用しており、その経験を活かして当院でも検査を行っています。

検査の方法ですが、まず患者さんの腹部皮下にセンサーを装着します(写真参照)。センサーによって体液中のブドウ糖の濃度を連続して測定し、5分ごとの平均



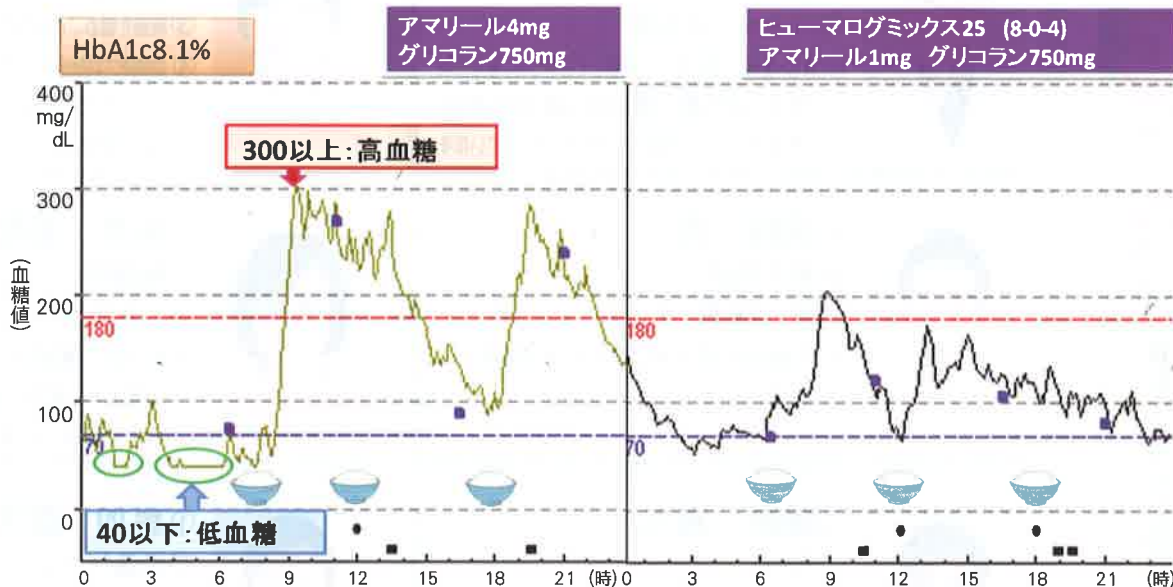


値を本体に記録していき、1日288個の血糖データをグラフ化して見ることができます。センサーは3日間程度装着します。

CGMを利用することで血糖値の動きが的確に把握でき、より最適な治療を目指すことが可能になります。血糖値がうまく下がらない、血糖変動が大きく安定しない人など、原因が分からない方も詳細な血糖の動きが分かることで治療を変え、安定するケースもあります。夜中に低血糖が起こっていたことがCGMで初めて分かる人もいます。最適な治療に向けてこれからもCGMを役立てていきたいと考えていますので、CGMを利用した検査・治療にご興味のある患者さんは、主治医の先生もしくは内科鳥巢、金子由梨までご相談下さい。

この症例では夜間に低血糖が起こり、食後には300以上の高血糖となっていました。夜間の低血糖を防ぐために内服を減らせば、さら

に日中の高血糖となってしまう可能性もあり、内服治療では限界であることが分かりました。翌日からインスリン治療に変更したところ、非常に血糖値が安定し、この結果を見て、患者さんもインスリン治療が有効であることを納得されました。



災害対策訓練を実施しました

4病棟 看護師 越智 尚美

平成24年3月25日の午後、災害対策本部の設置と準備、連絡手段の確認、院内および地域の情報収集と損害状況の確認と本部への報告、災害レベルの全職員への周知徹底、外来部門の診療続行に関する判断と告知、診療行為の安全な中止ができることを目標に災害訓練が行われました。

想定は、3月24日金曜日の午前11時に新居浜市で直下型地震が発災し壊滅的被害がある様子、西条市は震度4。発災当初はライフラインが停止した中で、講堂に災害本部を立ち上げ訓練が行われました。

外来部門でも、病院の入り口にトリアージポストが設置されました。トリアージは、最適な治療を行うため、重症度や緊急度によって傷病者を振り分けることです。時間経過とともに20名の傷病者が搬送され、トリアージされた傷病者が「緊急処置群」「準緊急処置群」「軽症群」の各エリアに搬送されました。

レントゲン撮影ができない、エレベーターが動かない、電子カルテが動かないなどの中で、災害訓練に参加した職員は、互いに協力しながら真剣に取り組みました。全職員への安否確認のメール送信もあり、年々訓練に新しい試みを取り入れています。

近い将来起こるといわれている東南海・南海地震。ここ、西条でも大きな被害が想定されています。日ごろから、災害への備えと訓練が必要です。災害対策委員会でもマニュアル整備など災害対策をすすめています。



部署紹介・社会福祉課

医療・福祉支援係チーフ
大田 啓介

平成23年10月、院長、事務長の指揮のもと、新たに社会福祉課が立ち上がりました。構成メンバーは9名。医療支援部次長兼・社会福祉課長のもと、医療ソーシャルワーカー3名、地域医療連携係2名、支援員として私を含め3名で、山間部の集落を中心に、無料低額診療事業の説明会や健康教室、医療相談会を開催し「陸の済生丸」をスローガンに活動をしています。4月からは地域医療連携室も加わり、医療ソーシャルワーカーや支援員と一丸となって、地域医療の充実に取り組んでいます。



健康や医療費でお悩みの方、ぜひ一度、社会福祉課へお声をおかけください。

新人歓迎会

医局秘書 神原 勝己

例年より寒さが長引いた今年の春。

いつもなら桜も散ってしまう4月9日の夜、満開の夜桜に見守られ新人歓迎会が行なわれました。植田センター長のご挨拶の後、岡田院長先生の乾杯とともに歓迎会はスタート。まだ緊張感と初々しさの残る新入職員のみなさんですが、美味しいジンギスカンとテーブルの料理に笑みがこぼれます。その後は緊張の新人紹介。一生懸命に挨拶を考え、自己紹介する姿を眼にすると、自分自身の新人時代を思い出します。新入職員の皆さん、どうかこの時の気持ちを忘れず、職場の仲間として、これからよろしくお願いします。

